

神武必勝論	石齋親筆	平野國臣著	明治三〇・五出版	三冊
婦女鑑	木版	西村茂樹編	明治三〇・七出版	六冊
圖書寮記録	活版	圖書寮編	明治三〇・二出版	六冊
須多因氏講義	活版	有賀長雄編	明治三〇・七出版	一冊
賀知章書今文孝經	木版		明治三〇・六出版	一冊
萬葉集古義全集	木版	鹿持雅澄著	自明治二四・一〇出版	一冊
開國起源	活版	勝安芳編	明治二六・一出版	三冊
殉難錄稿	活版	川田剛等編	自明治二六・三出版	壹冊
日本大辭林	活版	物集高見編	明治二六・八出版	一冊
山田長政事蹟合考	活版	寺崎遜之譯述	明治二七・五出版	一冊
熾仁親王行實	活版	杉孫七郎等編	明治二七・五出版	一冊
嘯月集	木版	山階宮晃親王遺稿	明治二七・五出版	一冊
東瀛珠光	寫眞版		自明治四一・一出版	五冊
倭漢朗詠集	寫眞版		明治四二・三出版	一冊
宋柘蘇東坡宸奎閣碑			明治四〇・三出版	一冊
宋柘高宗佛頂光明塔碑			明治四〇・三出版	一冊
三條實美公年譜	活版	巖谷修等編	明治四〇・三出版	一冊

疎開から展覽會へ

圖書寮書庫は昭和三年新築された。その後昭和十七年非常時局に遭遇するや、圖書保管の萬全を期し、都下南多摩郡多摩監區内に非常書庫三棟を造築、二棟に圖書寮保管の御物圖書・貴重圖書・準貴重圖書等約十萬點、貴重公文書類二萬三千點、其の他諸陵寮保管に係る圖書物件等に移置し、一棟は博物館の所用とし同館の貴重物件を格納した。又昭和十九年三月、内閣文庫はその保管に係る貴重圖書約七萬五千點を圖書寮に寄託、右非常書庫に疎開格納した。

氣象年報	活版	山階宮家編	自明治三九・八出版	四冊
岩倉公實記	活版	多田好問編	明治三九・九出版	二冊
孝明天皇紀	活版	徳大寺實則等編	明治三九・一〇出版	二冊
帝範	木版	細川潤次郎補訂	明治三九・一〇出版	二冊
臣範	木版	同右	明治三九・一〇出版	二冊
明治天皇御集	木版	宮内省臨時編纂部編	大正八・三出版	三冊
昭憲皇太后御集	木版	同右	大正八・三出版	三冊
大正德行錄	活版	宮内省編	大正八・三出版	三冊
神なからの道	活版	寛克彦述	大正八・三出版	二冊
宸翰集	寫眞版	皇太后宮職編	昭和二・三出版	一冊
皇室略牒	活版	圖書寮編	明治三三・三出版	三冊
帝室圖書目錄	活版	圖書寮編	大正五・三出版	一冊
帝室和漢圖書目錄	活版	圖書寮編	大正五・三出版	一冊
加帝室和漢圖書目錄	活版	圖書寮編	大正五・三出版	一冊
圖書寮漢籍善本書目	活版	圖書寮編	昭和五・三出版	一冊

然るに戦局の進展に伴ひ、都内の被害漸次増大するに鑑み、本寮殘置圖書を撰別し、重複圖書・新寫本・活字本を除く約十五萬點並に非常書庫格納中の公文書類を昭和十九年十月栃木縣下那須御用邸に移置した。次いで昭和二十年五月非常書庫格納の圖書寮圖書、内閣寄託圖書・那須御用邸移置本中の良書を長野縣下杓掛町に再疎開し、博物館は福島縣下に移置して保管の完璧を圖つた。

一方本寮分課中、編修に關する事務は昭和十九年五月南多摩郡横山村

林業試驗場に疎開し、事務遂行中の處、同二十年八月二日未明の空襲に際し、焼夷彈の集中攻撃を受け、當時事務參考資料として使用中の圖書千七百餘點は、同試驗場廳舎と共に灰燼に歸した。

昭和二十年八月十五日終戰の詔を拜するや、直に右疎開圖書の復歸準備に着手し、同年九月多摩監區非常書庫殘存の公文書類を、同十月には沓掛町及び那須御用邸移置の圖書・公文書・内閣寄託圖書等悉皆宮城内圖書寮書庫に復歸搬入を終へ、内閣文庫圖書は引續き圖書寮書庫に寄託する事となり、翌二十一年一月庫内整理を完了した。

昭和二十一年二月社會思想混頓たる中、文化國家再建の一翼を擔ひ圖書寮善本展覽會を開催して、圖書寮本の紹介をなした。爾來毎月一日より十五日まで一主題下に展示し、概説を附し、各個にその系統・地位並に價值影響等をも記して向學の資とし、回を重ねて既に三十七回を數へるに至つた。これより先、圖書寮展覽會は第一回を大正四年六月、第二回は大正六年四月、共に麹町三年町廳舎に於て、又第三回は昭和三年九月現書庫新築を記念し、天皇・皇后・皇太后三陛下の行幸啓を仰ぎ盛大に行はれた。今第一回よりその展觀の概要を掲げると

大正四年六月（大禮記念展覽會 於麹町三年町廳舎）
一 日記原本 看聞御記、山科教言卿記、小槻晴富宿禰記等室町期の日記原本七點

二 古寫本 金蘭方（平安初期寫）、左丞抄（保安二、三年寫）、寶物集（平康賴撰・傳撰者自筆）、源氏物語（後陽成院宸筆）、春秋經傳集解（鎌倉期寫）、古文孝經（清原良賢元徳二年寫）等和漢の貴重本二十點

三 古寫本古版本 近世名家寫本（特に古今集、論語諸本）

イ 古今集 釋寂惠寫本（弘安元年）、後柏原天皇宸筆本、釋頼阿寫本（正平八年）等の古今和歌集及び同註釋書十三點

ロ 近世名家寫本 老談記、難太平記（新井白石）、高橋氏文考注、

上野三碑考（伴信友）、大内裏圖考證（（親松光世撰）撰者自筆）、海國兵談（林子平撰・自筆）等三十點

ハ 論語 嘉曆二、三年寫本、釋道祐版本（正平十九年）等の諸本及び註釋書等二十四點

四 古版本（和版） 御成敗式目（小槻伊治版享祿二年）、節用集（慶長二年版）、職原抄（慶長四年勅版）、貞觀政要（慶長五年版）、周易（慶長十年版）等六十五點

五 古版本（宋版、宋拓、朝鮮版）

イ 宋版宋拓尙書正義（金澤文庫本）、集韻（金澤文庫本）等三十七點
ロ 朝鮮版、周易傳義大全、孟子諺解等十七點

六 雜 朝鮮國王李昭贈豐臣秀吉書（明萬曆十八年）、道藏經等九點及び即位禮大嘗會圖繪及び關係書類七十四點

大正六年四月展覽會（於麹町三年町廳舎）

一 陵墓關係圖書 前王廟陵記、山陵圖繪、享保御陵記、山陵圖會、山陵志等陵墓に關する圖、考證、記錄文書等百二十四點

二 日記 春記（東寺本・鎌倉期寫）、長秋記、平兵部記（冷泉家本）

三 萬葉集 元曆校本萬葉集等の諸本並びに萬時、類聚古集、萬葉代匠記、萬葉集古義等の諸註釋、論評書等五十四點

四 經卷 大般若波羅蜜多經、妙法蓮華經（以上二點）

五 元版 周易傳義、詩緯、史記等三十九點（但し、若干の宋版を含む）

昭和三年九月新築記念展覽會（於宮城内圖書寮）
一 水左記（源俊房自筆）、中右記（平安末期寫）、古今和歌集（後柏原天皇宸筆）等和書善本十五點

二 宮内省藏版圖書 埋木廼花以下四十四點

三 春秋正義（近藤守重手寫・影宋槧單疏本）、儀禮疏（平安期鈔本）
文館詞林 卷六百六十八末尾缺（和鈔本）等和漢にて刊寫された漢籍善本二十八點

- 四 御物本 古今和歌集（藤原俊成筆）等四點
五 歷代御畫像 天武天皇御畫像（原本金剛山寺所藏）等三十九點
第一回 昭和二十一年二月

- 一 宸筆類 後陽成天皇宸筆北辰之圖等五點
二 歌書類 麓木抄（靈元天皇宸筆）、藤六集等十二點
三 物語類 寶物集（平康賴筆）、戀路ゆかしき大將等四點
四 繪畫 天子攝關御影（藤原爲信、豪信法、等四點）
五 山本版本 五味禪、佛果圓悟碧巖錄等七點
六 韓版本 鄉藥救急方（永樂版）等三點
七 一切經 宋版、海印寺版（以上二點）
八 雜類 聚符宣抄、安樂集、銅人圖經（以上三點）
九 漢籍類 御注孝經、尙書正義等宋・元・明・清の刊本十四點
十 洋書類 日本誌（モンタヌ）、グランド將軍自筆書翰等三點
第二回 昭和二十一年三月

- 一 和書（日記記錄）
イ 宸記、御日記 天聽集、看聞御記、智仁親王御日記、靜寛院宮御日記（以上四點）
ロ 宮廷記錄 御湯殿上日記等六點
ハ 宮家、幕府關係日記 桂宮日記、御日記（江戸幕府）等三點
ニ 公卿日記 水左記、公衡公記等七點
ホ 職掌日記 雅喬王記（白川）、平田職史記等五點
ヘ 寺院日記 三寶院日次記（一點）
ト 幅物 後深草天皇御消息等四點

- 二 漢籍（宋明刊本） 太平寰宇記、周易本義附錄集註等九點
附 日本國見在書目錄

- 第三回 昭和二十一年四月
一 和書（勅撰歌集） 古今和歌集、後撰和歌集、拾遺和歌集以下の勅

- 撰歌集の諸本並びに註解、論評、歌論等四十九點
二 漢籍（欽定詩集） 凌雲集、文華秀麗集、經國集、文館詞林、全唐詩等和漢の欽定詩集十四點
第四回 昭和二十一年五月

- 一 和書（二十一代集） 古今和歌集（寂惠）、後撰和歌集（家仁親王）以下の二十一代集二十六點
註釋書 古今和歌集注（釋淨辨）、顯注密勘（藤原定家）、後撰集開書等の註釋書二十點
二 漢籍（欽定詩集） 凌雲集、經國集、文館詞林（以上寫本）、文苑英華、宋文鑑 白氏文集等和漢の刊寫本十六點
第五回 昭和二十二年六月
紙と裝潢

- 第六回 昭和二十一年七月
一 和書（歷史物語）
イ 榮華物語 桂宮本、新見本（古活字・爲親本校合）、谷森本（古活字・三條西本校合）等本文及び榮華物語抄、榮華物語系圖等九點
ロ 大鏡 谷森本大鏡（江戸初期寫）、同世繼（江戸初期寫）等七點
ハ 今鏡 谷森本（江戸初期寫）等本文三點、今鏡系圖目錄一點
ニ 水鏡 永和本寫本、谷森本（大慈光院本寫）等四點
ホ 増鏡 桂宮本、永正本（室町後期寫）等六點
ヘ 三鏡、秋津島物語、六代勝事記、池の藻屑（以上四點）
二 漢籍（易） 周易（慶長活字本）、易象正等九點
第七回 昭和二十一年九月

- 一 和書（柳原家本）
イ 續史愚抄 清書本、中書本、初稿本、續史御抄（以上四點）
ロ 柳原紀光自著 柳原紀光日記、同雜記、閑窓自語等六點
ハ 柳原家傳來本 皇年代私記、放生會部類、國太曆等六點

附 參考調度品雛形 御帳臺、御椅子等四點

公集（明鈔本）等十五點

第十三回 昭和二十二年四月

一 漢籍(唐詩別集)

イ 李白之部 分類補注李太白詩(元刊本)、李翰林集(明刊本)、李白詩(新井白石手寫)等十二點

ロ 杜甫之部 集千家註分類杜工部詩(元刊本)、杜詩集註(明刊本)、杜律集解(明刊本)等四十六點

二 和書(系圖) 新撰姓氏錄(水野本)、公卑分脈(大澤本)、壬生雜文書(帝王堅系圖、同横系圖)、本朝皇胤紹運錄(甘露寺親生筆本)等二十二點

第十四回 昭和二十二年五月

一 和書(御陵墓)

イ 高塚式陵墓 崇神天皇陵ノ圖文久山陵圖草稿以下、前方後圓墳、方墳、上圓下方墳の代表的陵墓の圖及び寫眞八點

ロ 高塚式古墳ノ構造(外部)葺石(貼石)寫眞、圓筒埴輪等六點、(内部)赤坂山古墳ノ圖 諸陵周垣成就記、石棺ノ寫眞等五點

ハ 堂塔式陵墓(法花堂)後白河天皇陵ノ圖、(多寶塔)近衛天皇陵ノ圖 文久山陵圖草稿等五點

ニ 山陵ノ守護 日本書記卷三十(合森本・文政版)、令集解卷四、高倉院法花堂尾州國富庄之事(壬生)等六點

ホ 山陵ノ祭祀 類聚符宣抄第四(壬生本)、朝野群載第二十一(柳原本)等五點

ヘ 陵墓ノ探索ト修理 前王廟陵記(松下見林)、山陵志(蒲生秀實)、諸陵周垣成就記(細井知慎)等十二點

ト 副葬品

二 漢籍(唐詩別集) 韓詩集註(清康熙三十八年刊)、白氏文集(明嘉靖十七年刊)、白樂天詩卷附解詁(寬仁二年・藤原行成筆)等十八點
第十五回 昭和二十二年六月

一 和書(日記紀行)

イ 平安時代 天德歌合日記(扶桑拾葉集)、土佐日記(桂宮本)、いほぬし(桂宮本)等十點

ロ 鎌倉室町時代 たまきはる(松岡本)、辨内侍日記(内閣文庫本)、十六夜日記(桂宮本)等二十三點

ハ 江戸時代付明治 有馬湯治日記(智仁親王・桂宮本)、おくの細道、東韃紀行(間宮林藏・手嶋本)、こゝろしつけ(税所敦子)等十八點

ニ 隨筆 枕草子(桂宮本)、つれつれ草(桂宮本)、小夜の寢覺(桂宮本)(以上三點)

二 漢籍(詩曲) 雍熙樂府、元人雜劇百種等、和漢刊の詩曲六點
第十六回 昭和二十二年六月

一 和書(歌學) 歌經標式(桂宮本)、古今和歌集假名序以下新學異見(香川景樹・桂宮本版本)、歌學提要(内山真弓・桂宮本)にいたる歌學書四十八點

二 漢籍(文選) 文選斷簡(鎌倉期鈔本)、同六臣注(宋刊本)、文選纂注等、文選關係書十四點及び本朝文粹、續文粹の諸本五點
第十七回 昭和二十二年九月

一 和書(私家集)

イ 自撰家集 主殿集(四條宮太皇太后宮主殿)成尋阿闍梨母集、再昌草等二十七點

ロ 他撰家集 輔親集、大納言經信集、深養父集、田上集等十九點
ハ 形式的組織からの分類 草根集(正徹)等七點
ニ 内容的取材からの分類 増基法師集等四點

二 漢籍(尙書) 尙書正義(宋刊本)、書集傳(元刊本)等八點
第十八回 昭和二十二年十月
一 和書(古文書) 後土御門天皇詔書(壬生本)以下詔書、宣命、位

記、都狀、宣旨、綸旨、女房奉書、院宣、令旨、太政官符、解、申文、廳宣等四十點

二 漢籍(史記、漢書) 史記集解(鎌倉期鈔本)、史記正義(元刊本)等六點及び漢書(宋刊本)、漢書評林(明曆三年和刻本)、後漢書(宋刊本)等七點

第十九回 昭和二十二年十一月

一 和書(物語) 竹取物語(桂宮本)、伊勢物語(谷森本)、大和物語(桂宮本)等の物語三十九點

二 漢書(春秋) 春秋經傳集解(鎌倉期鈔本)、同宋刊本、春秋正義(景鈔宋刊本)等十點

第二十回 昭和二十二年十二月

一 和書(江戸以前の國語研究)

イ 字書 新撰字鏡(天治本)等十六點

ロ 歌語辭書 綺語抄、和歌童蒙抄(零本)、袖中抄等十二點

ハ かなづかひ及てには 人丸秘抄(定家假名遣)、假名仕(傳蜷川親當筆)等十點

二 漢籍(小學類) 急就篇(明刊本)、說文解字真本(明刊本)、大廣益會玉篇(宋刊本)等二十點

第二十一回 昭和二十三年二月

一 (日本書道)

奈良時代より明治初年迄に互り、本邦人の筆に成る代表的筆跡を集め、大聖武(傳聖武天皇筆)以下寫經、鐘銘類、歌集、日記、消息、懷紙、行草書幅等全て四十七部及び世尊寺伊行筆懷中抄以下の書道書等十二部

二 (支那書道)

王羲之筆鵝群帖以下歐陽詢、顏真卿等唐土の名筆の手になる刻本、拓本類を集めたもの、主として宋・明代の拓本、全て二十二部

三 漢籍(小學類)

元刊の爾雅注疏以下宋・元・明・清刊の韻書類十四部、並びに本邦刊行の慶長活版韻鏡以下五部

第二十二回 昭和二十三年三月

一 和書(御歷代御撰)

イ 天曆御記以下後鳥羽・後深草・後宇多・伏見・花園・光明・後小松・後奈良・後陽成・孝明御十一代の宸記、伏見宮、桂宮、柳原本等全て十九部

ロ 後鳥羽院御集以下順德・龜山・伏見・後伏見・花園・後土御門・後柏原・後水尾・靈元・明治・大正各天皇の詩歌集、桂宮、加持井宮、谷森本等全て十六部

ハ 後鳥羽天皇御撰の世俗深淺秘抄以下、八雲御抄、建武年中行事、麓木抄、詠歌大概、百人一首抄、同聞書等二十部

二 漢籍(類書)

宋刊の大平御覽以下明刊の藝文類聚等、主として宋・明刊の類書十六部、他に慶長活版の補注蒙求二部

第二十三回 昭和二十三年五月

一 和書(萬葉集)

イ 本文は寫真版のもの、元曆校本以下四部、他に仙覺訓點本、木活字本等五部

ロ 和歌童蒙抄、桂宮本萬葉集抄以下注釋書十三部

ハ 類聚古集、冠辭考、萬葉集名所部類等、萬葉集に關する雜書十八部

二 漢籍(類書類)

新箋決科古今源流至論以下元・明・清刊の類書十二部、並に元和勅版皇朝類苑以下本邦刊本三部

第二十四回 昭和二十三年六月

一 和書（撰史）

古事記・六國史以下孝明天皇紀に至る迄、正史以下の撰史類四十二部

二 漢籍（論語）

天文刊本論語一部及び室町期鈔本論語義疏、翻正平刊本論語集解以下の註釋書九部、他に元刊本論語集註一部

第二十五回 昭和二十三年七月

一 和書（紙と装幀）

イ 古來の和紙を紙質により麻紙、楮紙、斐紙、染色加工紙に大別し、奈良朝寫經以下、記錄、歌集、物語、消息、懷紙等江戸期に到る迄の各種の文書を紙質並に時代に基き分類配列して、和紙の歴史を略述す。出品點數三十五部

ロ 和書古來の装幀様式を卷子、折本、旋風葉以下十種に分ち、各様式の典型的例として、卷子裝法華經以下十八部を類別配置す。

二 漢籍（四書 除論語）

イ 孟子 室町覆宋刊本音注孟子以下、本邦刊本七部、朝鮮寫本一部、明刊本二部

ロ 大學 大學衍義以下、本邦刊寫本五部、元明刊本三部

ハ 元刊本中庸朱子或問以下、本邦刊本共に全て六部

第二十六回 昭和二十三年十月

一 和書（古今傳受）

智仁親王、細川幽齊以下の筆に成る古今傳受關係文書書狀、開書、切紙、冊子等全て三十八部

二 漢籍（孝經）

宋刊本孝經以下宋明刊等支那に於ける刊本六部、拓本二部、御注孝經（逍遙院本摹刻）以下、本邦刊寫本十六部

第二十七回 昭和二十三年十一月

一 和書（雅樂）

雅樂に關する繪圖三部、樂書十一部、郢曲類四部、管樂器解說書類三部、弦樂器解說書類四部、血脈類三部、他に雅樂面八面、裝束三組

二 漢籍（群經）

明拓本唐開成石經以下元明の刊本並に拓本全て十七部

第二十八回 昭和二十四年十二月

一 和書（花園天皇の御學問）

宸記一部

イ 總説として妙心寺藏花園天皇御影摸本以下二幅、並に花園天皇天皇の御教養として、漢學、和學、佛教、和歌、書道、繪畫に就き、宸記、御集、宸翰等全て十六部

二 漢籍（宋詩文集）

東坡、山谷等の詩文集、宋・元・明・清の刊本九部、本邦の刊本、活版本等八部

第二十九回 昭和二十四年三月

一 和書（伊勢物語）

イ 本文は新資料たる谷森本伊勢物語（神宮文庫本）以下各系統本六部
ロ 註釋書は知顯集以下二條、三條西、冷泉家説より江戸期の新注に至る三十部

二 漢籍（宋人集類）

宋刊景文宋公集以下、宋・元・明・清各期版の宋人の集類十五部

第三十回 昭和二十四年四月

一 和書（年代記類附年表）

柳原本年代記斷簡（鎌倉期寫）、或は鴨脚本皇代記以下年代記類二十七部に、和漢合符以下年表十三部

二 漢籍（明版善本）

分類補注李太白詩以下、明版二十部

第三十一回 昭和二十四年五月

和書（歌合 平安時代）

一 前期は類聚歌合十卷本を中心とし、その編成に従ひ陽成院歌合（十卷本寫本）以下二十三部

二 後期は時代順に若狹守通宗朝臣女子達歌合以下二十一部

第三十二回 昭和二十四年六月

和書（歌合 鎌倉・室町時代）

一 鎌倉時代は文治二年衆議判歌合以下、永享四年石清水社歌合に至る四十五部

二 室町時代は貞治六年新玉津島社歌合より文龜歌合に至る十八部

三 他に特殊歌合として自撰・撰歌・詩歌合等二十三部

第三十三回 昭和二十四年九月

和書（法制史）

古活字版十七條憲法、保安二年寫類聚符宣抄以下、明治憲法草案に至る法制史料四十二部

第三十四回 昭和二十四年十月

和書（續群書類從）

續群書類從の編纂の過程を、本寮藏原本を中心として、蒐集古寫本、版本、保己一時代の書寫校合本、忠實時代の書寫校合本、取捨考勘本、忠昭時代の書寫校合本に分ち、更に續群書類從の祖本となつた諸家本等を展示した。

第三十五回 昭和二十四年十一月

編修課事業概要

機構の沿革

當編修課の機構は、夙に明治三年閏十月太政官中に御系圖取調掛を設けて、専ら皇室の御系譜を調査編修せしめられたのに由來する。この事

和漢洋善本

一 繪卷物 室町期寫住吉物語、傳岩佐又兵衛筆小栗等五部

二 記錄類 伏見宮本權記（平安末期寫）以下、古寫本原本四部

三 和漢洋古版本 北宋版御注孝經以下、支那・朝鮮・本邦版十部

四 古鈔本 大治三年寫一切經音義等三部

第三十六回 昭和二十五年四月

百人一首・自讃歌

一 百人一首は本文・注釋・繪本に分け、本文は異本百人秀歌以下五部、注釋は應永十三年奥書百人一首以下、舊注新注三十九部、繪本

五部

二 自讃歌は本文三部、注釋六部

第三十七回 昭和二十五年六月

圖書寮本の藏書系列的展示會の第一回として次の各家本を展示した。

一 壬生家本 自筆本匡遠宿禰記以下歷世日乘、官務職掌文書、所領

關係等二十七部

二 平田家本 職忠以下の日記、有職資料等二十部

三 柳原家本 歷世日記の外、水左記正本以下の紀光の蒐集傳來本、續史愚抄以下紀光の編纂部類等十八部

四 白川家本 雅業王記正本以下日記、職掌、所領關係二十三部

（大窪太朗記）

業はやがて太政官の修史局乃至修史館の手を経て、同十年十月宮内省に移管せられ、初め侍講局に屬したが、同十七年八月圖書寮が創設されるや、御系譜課を置いて、その事務を引繼ぐ事となつた。次いで同四十一